

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 財団法人 青少年国際交流推進センター理事長あいさつ
- 3 財団法人 青少年国際交流推進センター平成24年度事業計画書
- 4 日本青年国際交流機構(IYEO)会長あいさつ／活動計画
- 8 SSEAYPインターナショナル第24回総会(SIGA)
- 12 タイ王国・スタディツアー 2012

マクロコズム

マクロコズム平成24年度第1号(第98号)の 発刊に当たって



財団法人 青少年国際交流推進センター
理事長 上村 知昭

マクロコズム第98号(平成24年度第1号)の刊行に当たり、初めに東日本大震災への対応について申し上げます。当センターとしても、出来得る限り支援をいたしてまいりたいと存じ、政府(内閣府)の支援金口座を通じ義援金を送るとともに、日本青年国際交流機構(IYEO)と緊密な連携を図りつつ、IYEO会員そして世界各国の事後活動組織や既参加者からの支援品等を被災地に送る等を行いました。余りにも甚大な被害で、被災者の生活、被災地の復興もまだまだ今後の大きな課題という状況にあると存じます。

一方、このような中で、平成23年度の内閣府青年国際交流事業は、これまでどおり実施し、所期の成果を挙げられるだろうかと当初相当心配いたしましたが、各都道府県そして実行委員会の中心であるIYEO会員の皆さんの熱意で予定されていた全事業(当センターが内閣府との契約により担当)が、これまでに優るとも劣らぬ成果を得て無事終了することができました。また、当センターの自主事業であるタイ王国へのボランティア派遣、国際理解教育支援プログラム、国際交流リーダー養成セミナー(23年度は開催が東日本大震災と重なり中止)、機関誌マクロコズムの発行などによる情報提供・啓発等々も関係者の方々の御協力により、所期の成果を得て無事終了することができました。

24年度におきましても、内閣府青年国際交流事業への協力をはじめ事後活動支援、自主事業の充実等を通じ、ますます緊要の課題であって当センター設立の趣旨である「国際化の進展する時代にふさわしい青年リーダーの育成と、これら青年の人的ネットワークの形成」のため、これまでも増し、役職員一丸となってその使命達成に向け頑張って参る所存です。変わらぬ御支援・御協力をお願い申し上げ、24年度第1号発刊に当たっての御挨拶とさせていただきます。

平成24年度事業計画書(案)

1 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力

(1) 青少年国際交流スタディツアー

地域での国際交流活動に関心と意欲のある青少年を内閣府の青年国際交流事業既参加青年の組織のある国に派遣し、ボランティア活動への取組や訪問国青年の案内による視察、調査等を行う。

年1回 9日間、参加人数20人程度

(2) 国際理解教育支援事業

内閣府の実施する青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を、国際理解教育に資するため、日本の学校に派遣する。年6回 派遣人数 各3人程度

(3) 国際交流リーダー養成セミナー

国際理解の促進を図るため、国際交流に携わる指導者の養成を行う。

年1回 東京で開催、参加人数 20人程度

2 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力

(1) 内閣府との共催事業

① 国際青年交流会議

内閣府主催の「国際青年育成交流」事業の中で、基調講演・テーマに基づいた視察やディスカッションプログラム等を共催で行う。

年1回 東京で開催、参加人数 100人程度

② 日本・ASEANユースリーダーズサミット

内閣府主催の「東南アジア青年の船」事業の中で、日本とASEAN諸国を結ぶネットワーク作りに参加する機会を提供することを目的として共催で行う。

年1回 東京で開催、参加人数 500人程度

(2) その他

3 青少年国際交流に関する啓発及び研修

(1) 青少年国際交流全国フォーラム

全国各地域で国際交流に携わる指導者及び青年を対象に、有識者の講演、青少年国際交流活動に関する事例発表・討論等を行う。

年1回 沖縄県で開催、参加人数 300人程度

(2) 青少年国際交流を考える集い

全国8ブロックで開催。平成24年度は次の各府県で開催する。

北海道・東北ブロック…宮城県	関東ブロック…神奈川県
北信越ブロック…新潟県	東海ブロック…静岡県
近畿ブロック…大阪府	中国ブロック…岡山県
四国ブロック…高知県	九州ブロック…沖縄県

(全国大会同時開催)

(3) 青年国際交流事業報告会

国際交流に関心のある青年を対象に、青年国際交流事業参加者による報告会を行い、国際交流事業へ

の参加を促す。

年3回 東京で開催、参加人数 各250人程度

4 青少年国際交流に関する出版物の刊行等

(1) 機関誌の刊行

全国の地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の紹介などを中心とした情報誌「マクロコズム」を発行し、都道府県を中心とする関係機関及び一般に配布する。季刊 11,500部 1回 3,000部 3回

(2) 年報の刊行

全国の地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の実施状況など、青少年国際交流に関する情報や資料を収集、整理した年報を作成し、国際交流実施団体等に配布するとともに、政府刊行物をセンター等において販売する。年1回発行 1,500部

(3) その他

青少年国際交流事業に関連する各種資料を作成し、都道府県を中心とする関係機関に配布する。

5 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究

(1) 青少年の国際交流事業に関する情報収集

① 青少年国際交流情報ネットワークの整備

内外の青少年国際交流関係者に関する情報を収集し、ネットワークを整備する。

② 海外における国際交流活動に関する情報収集

関係各国に職員等を派遣し、国際交流に関する情報を収集する。

(2) ホームページによる国際交流活動に関する情報提供

情報誌「マクロコズム」のホームページ上での公開
イ センターの概要及び事業案内、各種募集案内等の公開

(3) 青少年国際交流に関する調査研究

6 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等

(1) 国際交流活動の推進

全国各地域で行われる青少年の国際交流活動を推進する。

(2) 青少年国際交流コンサルティング

青少年国際交流事業の実施を希望する団体を対象に、青少年国際交流事業の企画、実施に関する相談に応ずる。

(3) 国際ボランティア等に関する情報提供

依頼に応じて国際協力、国際貢献に関心のある青少年に対し、国際協力、国際貢献を行う活動団体、活動内容等を紹介する。

(4) 活動奨励金の交付

国際交流活動の一層の活性化を図るため、都道府県団体会員に対し、活動奨励金を交付する。

■ ウェブサイト <http://www.centettrye.org/>

当財団が主催する事業や内閣府青年国際交流事業の案内等を随時更新しています。

■ 「MACROCOSM」(マクロコズム) <http://www.macrocosm.jp/>

年4回編集・発行している「MACROCOSM」を1994年11月に発行された第1号から最新号までウェブサイトで閲覧することができます。

■ パンフレット/年報

当財団の活動を紹介したパンフレットも併せて御参照ください。「青年国際交流事業と事業参加者の事後活動」(通称年報)も引き続き編集・発行していきます。



「青年層の活性化をめざして」

日本青年国際交流機構会長 大河原 友子



平成24年度役員改選が行われ、新たな体制になりました。私自身は、第3期目を続投することとなり、会長として5年目を務めさせていただきます。全国の会員の皆様に御協力いただき、新たに気持ちを引き締めてがんばります。

昨年の東日本大震災から早くも1年以上の月日が経ちました。IYEOには、国際交流で培われたネットワークのおかげで、日本のために世界各国で様々な形のチャリティーイベントが開催され、全国の会員、世界の仲間からIYEOに温かいメッセージや活動状況を伝える情報と共に支援金が寄せられました。この貴重な支援金を基に、岩手県、宮城県、福島県、各IYEOの会員と連携して地元が必要とする支援に取り組みしました。こうした活動は、被災地の仲間を勇気付け、私たちに固い絆を再確認させてくれました。

被災地の現状は、復興に向けての第一歩を踏み出したところで、これからまだ長い年月を要します。今後も継続的な活動をしていきましょう。

また、IYEOには、自分たちの思いを形にしたいときに活用できる自主活動サポート助成金制度(チャレンジファンド)があります。より多くの方にこの制度を認識していただき、柔軟なアイデアで様々な企画を立案し、会員の頑張りが形になることを目指します。

そして、今年度の活動方針の大きな柱として、「青年層の活性化の基盤づくりに取り組もう」を掲げて活動していきます。近年青年たちは内向きである、活力を失いかけているなどと言われていますが、そんな青年ばかりではありません。青年に自身の力を発揮で

きるような場を提供することが必要です。この度、第55回全国推進会議で全国の代表者の意見を集約するとともに会員の声も受け、そして今までの活動実績を踏まえた上で、次のような柱を盛り込んだ青年施策への提言書を政府及び関係者に提出しました。

日本人としての自己認識(アイデンティティ)や国際感覚、そしてリーダーシップといった力の育成の重要性を軸に、自立心の向上、グローバル人材及び地域リーダーの育成、団体及びグループの育成や連携、コミュニケーション力の向上、指導者育成制度などについての具体案を含めて提案しました。青年の育成に力を注ぐことが、日本の明るい未来創りにつながると同時に、ニートやひきこもり、犯罪等の問題行動を起こさないための予防策につながると信じています。

青年層を活性化させるために必要なことが、正に我々が日々国際交流事業で青年たちを育成している内容と重なることを改めて認識するとともに、青年国際交流事業を通じて青年期に貴重な体験をすることの重要性を感じています。この大きなチャレンジは内閣府及び(財)青少年国際交流推進センターや各関係団体との連携なしに実現することはできません。多くの方々の知恵と行動力を集結させて明るい未来の担い手を育成するために皆様と共に邁進していきたいと思ひます。本年度もよろしくお願いします。

I. 活動方針

「社会に活力を与えられる人材育成を目指して」

変化の激しい現代社会においては、これらの変化に対応し幅広い視野を持って新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされている。このような現状を踏まえて、50年を超える内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと日本青年国際交流機構で築き上げたネットワークをいかした人材育成に取り組む。

1. 青年層活性化の基盤づくりに取り組もう

青年の社会活動へのニーズを把握して、青年の活動の場作りと環境整備に取り組むべく、国に対して青年施策についての提言を積極的に行う。同時に、自団体の活動内容を見直すとともに他団体との連携に取り組み、青年層の活性化を図って、青年による社会の活性化を目指す。

2. 地域社会に貢献できる人材育成に取り組もう

地域における国際交流活動を積極的に行い、地域と世界の距離を狭めるとともに、地域のニーズに合った貢献が果たせる人材の育成に努める。

3. 国際ネットワークをいかした国際協力活動に取り組もう

国内外における様々な課題に対応するため、半世紀にわたって築いたネットワークを活用して国際協力活動を推進し、社会に貢献していく。

II. 主な活動分野

第1分野： 地域における国際交流活動を基本にした人材育成

- (1) 短期の海外派遣事業
- (2) 国際理解を深める勉強会やワークショップなどの研修プログラムの開催
- (3) 小中学校の国際理解教育への協力
- (4) 在住外国人への支援活動
- (5) 地域の人々と在住外国人との交流プログラム
- (6) 内閣府青年国際交流事業報告会の開催

第2分野： 国際交流事業受入れへの協力及び自主事業による外国青年受入れ／派遣

- (1) 青年国際交流事業へのプログラム内容の提言
- (2) 行政・団体等との連携による地元青年を含めての受入実行委員会の組立て
- (3) ホームステイのアレンジ
- (4) 地域産業並びに多様な分野との連携による外国青年の日本理解促進
- (5) 団体及び大学との連携によるディスカッションプログラムの組立て

第3分野： 国際協力活動

国内外で起きる災害や諸問題に対して、各国の事後活動組織と連携して問題解決に向けて取り組む

第4分野： 都道府県IYEO及び会員のネットワーク強化と啓発活動

- (1) 全国大会、ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)などの開催
- (2) 都道府県IYEO役員研修の開催
- (3) ブロック内IYEO間の連携強化の取組
- (4) 各事業の既参加者の縦のつながりを促進する取組による国内ネットワーク強化
- (5) プリテンボード発行などによる会員間の情報共有

第5分野： 内閣府青年国際交流事業の外国参加青年とのネットワーク

- (1) 「東南アジア青年の船」事業のASEAN各国事後活動組織との国際連携組織(SSEAYPインターナショナル)
 - ① SSEAYPインターナショナル総会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SSEAYPインターナショナル事務局担当国としての対応
- (2) 「世界青年の船」事業参加46か国の事後活動組織との国際連携組織(SWYAA)
 - ① SWYAA総会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SWYAA事務局としての対応
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携

- ① 中国との交流プログラムの推進
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携
 - ① 「日韓交流連絡会議」の開催
- (5) 「国際青年育成交流」事業の交流国であるヨルダンとドミニカ共和国とのネットワーク形成
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成
- 第6分野：青少年分野についての活動の啓発**
 - (1) 全国の会員からの意見をまとめて、国の子ども・若者施策に対して提言書を提出
 - (2) 国及び地方自治体の青少年に関する法律及び条例の普及・啓発への協力
 - (3) 若者の人材育成並びに意識啓発を目的とした独自の自主事業への取組
 - (4) 青少年分野に関わる公的な場への人材推薦及び積極的発言
 - (5) 他団体との連携
- 第7分野：広報活動への積極的取組**
 - (1) 団体をアピールするための広報
 - ① 内閣府青年国際交流事業との連携をわかりやすく示す
 - ② 独自の自主事業をまとめて対外的にアピールできるよう組み立てる
 - ③ インターネット広報の充実
 - (2) 内閣府青年国際交流事業募集広報への協力
 - ① 年間を通しての広報活動の工夫
 - ② 事業報告会及び事業説明会の開催
 - ③ 大学での事業説明会への協力
 - ④ 企業への働きかけ
- 第8分野：財政基盤の確立**
 - 将来を展望した運営と財政基盤確立の取組

Ⅲ. 本部における活動計画

1. 全国大会の開催
 - 第28回全国大会沖縄大会
 - 日程:平成24年12月8日(土)～9日(日) 開催地:沖縄県
2. 全国推進会議の開催
 - 第56回全国推進会議
 - 日程:平成24年12月7日(金)～8日(土) 開催地:沖縄県
 - 第57回全国推進会議
 - 日程:平成25年3月 開催地:東京都
3. ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)
 - 平成24年度中に8ブロックにおいてブロック大会を開催する。今年度九州ブロックについては、全国大会と同時開催とする。
 - ブロック毎に活動方針に沿ったスローガンを設定し、ブロック大会開催の際に掲げて、会員の活動についての共通認識の形成と意識高揚に資する。
4. 東日本大震災の被害からの復興活動への取組
 - 平成23年3月11日(金)に発生した「東日本大震災」による被害への復興支援を継続的に行うべく、岩手県、宮城県、福島県を中心とした被災地のニーズを把握し、都道府県IYEOとの連携を強化して進めていく。
 - (1) 東日本大震災復興支援のための募金活動
 - (2) 継続支援を行う地域のニーズを明確に把握して、効果的な支援に取り組む
 - (3) 国際交流の視点を取り入れた活動を、被災地において積極的に展開する
 - (4) ホームページ等で世界や全国からのメッセージや活動内容を発信
5. IYEO設立20周年記念からスタートした事業の継続
 - 設立20周年記念を機に取り組んだ事業のうち、成果をあげたものから継続して取り組んでいく事業を選定して積極的に取り組む。(グローバル・フォト・コンテストの作品展示の推進、IYEO Café、広報活動の推進)
6. 都道府県IYEO役員研修の開催
 - 都道府県IYEOで事務局を担当する役員メンバーから代表者を集めて、実務研修を行う。
 - 都道府県IYEOの活動基盤の充実を図ることにより、全国組織としての組織基盤の確立を目指して人材育成の一環として行うものである。今年度は、活動方針に沿った活動を具体的に推進するに当たって必要な運営能力の向上を目指したプログラムを組み立てること、特に考えて組み立てる力を身につけることを目指した研修とする。
 - 日程:平成24年6月9日(土)～10日(日)(1泊2日)
 - 開催地:東京都
7. 海外とのネットワーク
 - (1) SSEAYPインターナショナル第24回総会の開催
 - (日程:平成24年4月25日(水)～4月28日(土) 開催国:日本)
 - (2) 「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)国際大会の開催
 - (日程:平成24年10月4日(木)～10月8日(月)

- 開催国:バーレーン)
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携
 - (「日韓交流連絡会議」の開催
 - 日程:平成24年8月17日(金)～19日(日) 開催国:日本)
- (5) 「国際青年育成交流」事業のネットワーク形成に向けて国内におけるAir-Net Day の開催などを軸におきながら継続的派遣国を中心に発展
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成に向けて
- 8. 国際並びに国内支援活動
 - (1) インドシナ津波被災国であるスリランカへの支援(スリランカ教育支援プロジェクト)を始めとする「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)における国際支援活動の継続
 - (2) インドシナ津波被災国であるタイ、インドネシアへの支援、並びにタイの「For Hopeful Children Project」への支援活動を始めとする「東南アジア青年の船」事業事後活動連携組織(SSEAYPインターナショナル)における国際支援活動の継続
 - (3) 事後活動組織の国々においての災害に対して、各国事後活動組織との連携による支援
 - (4) 各都道府県においての災害に対して、都道府県IYEOとの連携による支援
- 9. 青少年分野についての意識の啓発及び具体的な活動の推進
 - (1) 子ども・若者施策への提言
 - (2) 青年のリーダーシップの向上や社会への参画意識を高めることができる内容及び異文化理解を促進する内容の自主事業の企画・運営
 - (3) 子ども・若者育成支援推進法の普及・啓発への協力
 - (4) 各種青少年国際交流事業へのリーダー推薦及び公的委員会等への人材推薦
 - (5) 他分野、他団体との連携活動の推進(共催、後援、協力)
 - (6) 社会活動(ボランティア活動)の促進・啓発
- 10. 事後活動「Bulletin Board」の発行
 - 年5回(全体発送と全国大会案内、事後活動ニュースの発送時に同封)都道府県IYEOの連絡文書発行に協力する。
 - A4両面スペースに都道府県ごと(またはブロックごと)に印刷して全体送付の際に同封する。
- 11. 国内ネットワークの強化
 - (1) 各事業直後の全体での事業報告会の開催(年3回)
 - 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)及び(財)青少年国際交流推進センターと共催
 - ① 第24回「世界青年の船」事業報告会
 - 平成24年6月17日(日)
 - ② 平成24年度航空機による青年海外派遣事業報告会
 - 平成25年2月 3日(日)
 - ③ 第39回「東南アジア青年の船」事業報告会
 - 平成25年2月24日(日)
 - (2) 事業毎の国内ネットワークの自主的強化
 - ① 第6回Air-Net Dayの開催(平成24年5月12日(土))
 - ② 「日本・中国青年親善交流」事業関係者による中国同窓会の開催
 - ③ 各事業関係各国大使館への訪問
 - ④ 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」既参加者の情報交換会の開催
- 12. 団体としての広報活動強化並びに平成25年度内閣府青年国際交流事業募集広報への協力
 - IYEOの社会活動団体としての活動実績を明確にアピールし、非営利団体としての社会的役割を広く知らしめるための広報活動に力を入れるとともに、内閣府青年国際交流事業の充実をはかるために、参加者募集広報活動の協力に重点をおいて取り組む。
 - (1) 団体広報
 - ① VOICE100の活用
 - ② 「はじめてのIYEO」の活用
 - ③ ツイッターの活用
 - ④ その他、効果的なツールの活用への取組
 - (2) 事業広報
 - ① 年間を通しての広報活動の工夫
 - ② 事業報告会及び事業説明会の開催
 - ③ 大学での事業説明会への協力
 - ④ 募集パンフレットの配布先の開拓
 - ⑤ マスコミへの紹介
 - ⑥ 企業への事業説明
 - ⑦ その他、効果的な広報活動を検討し推進
- 13. 財政基盤の確立
 - 会員に対しての呼びかけを含め、継続的な寄付金収入の確保に努める。

子ども・若者施策について 日本青年国際交流機構からの提案

～若者層の活性化を目指して～

日本青年国際交流機構は、活力を失っていると言われる現代日本社会において、今後を担う人材の基本となる若者の育成が急務と考え、どのような取り組みが必要かを会員に問いかけることで、様々な層の考えを集約して政府に提出したく考え、以下の活動に取組みます。

IYEOとしては、青少年層の活動の充実には重きを置き、活動方針に人材育成を軸にして三本柱の第1に「青年層活性化の基盤づくりに取り組もう」を掲げ、具体的活動の展開を目指しています。今までの活動実績を踏まえながら、全国の代表者による決議をもって意見を取りまとめて、担当大臣をはじめとして各方面に以下の内容で提言書を提出しています。

【若者施策の重要課題】

1. 「日本人としての自己認識(アイデンティティ)の確立」と「国際的感覚を培う」ことの重要性

説明: 国際社会に対応できる力の重要性は、誰もが認めているところです。その為に必要なこの二つの視点を重要視するべきと考えます。

2. 「リーダーシップを身につけることの重要性」と「リーダーを育てる必要性」

説明: 現代の日本社会においては、全般的に「リーダー」という言葉に対する認識が弱く、リーダーシップを取れる力を身につけて、社会に貢献していくとの考え方が薄い状態にあります。その結果、若者が、自ら前に立って行動することの意識が弱くなっています。自らがリーダーシップを発揮することの重要性を認識させる必要があり、国の方針に明記することで、方向性が示せると考えます。

I. 施策実施についての考え方

人の一生における「子どもから若者」の時期は、希望や将来への夢を持って過せる素晴らしい時代である。様々な経験を経て一人前の社会人として成長するのであり、この時期にどのような体験ができるかによって人としてのありようが決まってくると言っても過言ではない。子どもは、すぐに成長して若者になり、成人して社会を担う人材となるのである。

1. 子ども時代と若者時代

子ども・若者施策へ取組む際に、対象の考え方として明確に分けるべきである。

＜子ども時代＞ 乳幼児から18歳未満の基本的に保護されるべき年代で、基本的な人格形成に力を入れて育成する。

＜若者時代＞ 18歳以上から30歳程度以下の自立して社会で活動している社会の担い手として捉え、次の社会の中核を担うための責任意識を備えた自立心の強い人格形成を目指して鍛え育成する。

2. 育成施策と対処施策

基本的な重点を育成施策におきつつ、常に問題が発生した際の対応策及び救済策について幅広く対応する体制を組む。育成施策の考え方としては、子どもや若者を社会の大切な構成員として捉え、常に一般社会との繋がりを考えて実社会での活動につながる育成の方策を作る。

3. 若者の役割

子ども・若者への施策は、担い手の中心は若者層と考えて取組まれるべきであり、子ども・若者の問題は若者層が中心となって対応策、解決策を考え、また、その対応の担い手となって活動していくべきである。様々な施策の構築には若者を中心に取組む体制を作ることを基本にするべきである。

II. 施策を立てるにあたっての柱とするべき内容

1. 自立心の向上

自らの歩む道を選びきれずに、様々な課題を抱えてしまう子どもや若者が増えている現代においては、自立心を向上させる取組が全ての基盤になるといっても過言ではない。特に、若者にとっては、自立心の確立は、社会に出て行く際の基本である。

2. リーダーシップの育成＜双方向からのリーダー育成＞

① グローバル人材の育成

国際社会で広く活動しつつ国際社会における日本を支えていく意識を明確に持った人材の育成

② 地域リーダーの育成

国際的な広い視野を持ちつつ、地域社会を支え次世代の育成にあたる意識の強い人材の育成

3. 社会活動の振興

現在は、様々なボランティア活動が定着しつつあるが、より積極的に子ども・若者の育成の活動として、様々な分野での社会活動への取り組みを推進し奨励するとともに、それらの活動や団体・グループの育成、連携に協力する体制が、行政なども含めた組織として確立されることが必要である。

4. ネットワーク拠点の確保

現在は、かつての青少年会館や活動センターが、地方行政の財政悪化により次々と縮小閉鎖の方向にあり、団体活動に取り組む拠点が減少している。現代の若者が、集まりやすくコミュニケーションを取りやすい活動拠点の確保が必要である。直接に顔を合わせられる場とIT関係を活用した場の両面を考えていくべきである。

5. 異文化への対応力の育成

現在の日本においては、若者の海外体験は容易になっているが、それは単に旅行が中心であり、多くは文化、人への理解や相互理解を身につけるものまでには至っていない。留学生や在住外国人が増えている現状では、国内における異文化への対応力を含めての強化が急務である。

① 国内の国際化への対応

地域の活性化のためにも、海外との繋がりを生かした取組みは必須であり、そうした動きに対応できる力を幅広く育成していくべきである。

② 国際社会への対応力の向上

国際社会において、日本が担わなければならない役割が増大している中で、複雑化する国際社会に対応しつつ日本の主張をしていける人材が数多く必要となっている。そのためにも、コミュニケーション力の高い人材の育成が急務である。

6. 若者の諸施策への参画

青少年分野だけでなく、様々な施策の作成、実施に際して青年層が積極的に参画できる体制を作り、若者の社会参画意識を高めるべきである。

7. 指導者制度の確立

増大する子ども若者の諸問題を解決していくためには、活動現場での対応だけでなく、子ども・若者が抱える問題解決に対応できる専門知識や経験を持つ人材が必要である。そのための人材育成には、欧米の多くの国々に創設されているユースワーカー制度を検証して、日本にあった形で、子ども・若者の指導に専門的に対応する指導者育成制度を創設するべきである。

日本青年国際交流機構 (IYEO) の東日本大震災復興支援活動への取組



<http://www.iyeo.or.jp/shien>

IYEO東日本大震災復興支援活動募金は平成24年度も継続し、被災地IYEOでの活動を中心とした復興支援プロジェクトに充てます。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

※ゆうちょ銀行間送金の場合 (ATM 使用で送金手数料無料)
 口座名：日本青年国際交流機構 記号 10130 番号 81644051
 ※他金融機関からの送金の場合 口座名：日本青年国際交流機構
 店番号 018 (ゼロイチハチ) 普通預金 口座番号 8164405

【お願い】送金の際は、送金者名にグループ名 (又は個人名) と代表者名を御記入ください。送金と併せて、以下のアドレスにグループ名、代表者名、代表者連絡先 (メールアドレスと連絡先電話番号) をお送りください。加えて、ウェブサイトへの寄付者名公開を希望されない場合は、その旨を記載してください。

連絡先 iyeobokin@iyeo.or.jp

■ IYEO東日本大震災復興支援募金 収支報告

募金総額	14,262,233円 (内訳 団体 9,539,704円 個人 4,722,529円)
支出金額	12,616,773円
残額	1,645,460円

■ IYEO東日本大震災復興支援募金 収支報告

支援金	5,545,610円 内訳 岩手県IYEO 900,000円 宮城IYEO 2,502,520円 船と翼の会ふくしま 1,542,670円 飯館村 300,420円 陸前高田市教育委員会 300,000円
支援物資購入	2,364,697円 (生活必需品、衣服、靴、寝具、食料品、医薬品等)
事務経費 (送料等)	90,016円
義援金 (お見舞金)	4,616,450円 (岩手・宮城・福島被災者会員宛15名に基本3回支払い)
合計	12,616,773円

*平成24年5月17日時点、平成24年4月末日までに外資で受け取った募金は全て円に換金済み

■ 復興支援活動の取組 (マクロコズムvol.96での報告以降の動き)

岩手県青年国際交流機構

- ・ IYEO縁側カフェ: 3月17日に12世帯、29世帯、160世帯の3か所の仮設住宅で、3月31日は田野畑村でIYEO縁側カフェを開催しました。
- ・ 「東南アジア青年の船」事業事後活動組織 (SSEAYPインターナショナル) 総会 (通称SIGA) の社会貢献活動に協力しました。(詳細は10ページを御覧ください)

宮城青年国際交流機構

- ・ 北海道・東北ブロック交流会 (被災地ツアー): 2月18~19日に、被災地の現状を知り、復興に貢献する目的で、復興支援先での交流会と被災地視察を行いました。
- ・ 第3回ワンコインdeリフレッシュ (リラックス&リフレッシュ温泉ツアー): 3月17~18日の日程で山形県IYEOと協働で石巻市立雄勝病院スタッフを対象に実施しました。
- ・ パソコン寄贈: 3月25日にIYEOとブライスウォーターハウスクーパース株式会社 (PWC) に勤務する「世界青年の船」事業既参加者と連携し、パソコン33台を石巻市立病院の医療スタッフへ寄贈しました。昨年からは半年間、IYEOは仮設巡回用にリースのパソコン10台を送って支援していましたが、今回、IYEOが必要なソフトの購入と発送手続き等を行い、PWCがパソコン本体とソフトのインストールを行いました。

船と翼の会ふくしま

- ・ 復興支援ぞうきんプロジェクト: 全国から集まったタオルで、被災者の皆さんが作った雑巾を、2枚100円以上で販売。これまでの炊き出し支援で知り合った、南相馬市、三春町、福島市の借上げ住宅や仮設住宅にお住まいの方に製作を依頼し、買い取り、販売をしています。IYEOブロック大会、全国大会、各県IYEO、福島市内NGO事務所等が販売に協力しています。



岩手県IYEO IYEO縁側カフェ京都IYEOの鶴田さんによる日舞披露



宮城IYEO 桜の花と心温まるメッセージと共に届いたパソコンを受け取る及川敦子さん

SSEAYPインターナショナル第24回総会(SIGA)

The 24th SSEAYP International General Assembly in Japan

「東南アジア青年の船」事業のASEAN各国事後活動組織と、日本青年国際交流機構(IYEO)で組織しているSSEAYPインターナショナル(SI)の第24回総会(SIGA)が、“SSEAYP International: Together, Move Forward”をテーマに、平成24年4月25日～28日、東京で開催されました。

1988年にマレーシア・クアラルンプールにて第1回SIGAが開催されて以来、ほぼ毎年、SI加盟各国事後活動組織の持ち回りでSIGAが開催されています。参加者はASEAN各国から345名、日本が150名となり、「東南アジア青年の船」事業の既参加者だけでなく、「青年の船」事業、「世界青年の船」事業、「国際青年育成交流」事業などの既参加者やその家族、友人も含め多様な参加者が集まりました。



中川正春内閣府特命担当大臣による歓迎レセプションあいさつ

SIGA Japan 2012プログラム

月日	時間	主なプログラム
4/25 (水)	18:30-21:00	参加者来日 (成田／羽田空港) SI会長会議 (COPミーティング)
4/26 (木)	9:30-11:00 12:00-13:30 13:45-15:45	総会 - 各国事後活動組織より活動報告 歓迎レセプション (内閣府、日本青年国際交流機構共催) SI 25周年記念フォーラム - パネルディスカッション 「グローバル社会における人材育成の重要性」 - 文化パフォーマンス - 社会貢献活動 (陸前高田市) 報告 - 展示
4/27 (金)	8:00-10:00 10:00-16:00 19:00-21:00	ふじ丸での朝食・船内見学 課題別視察 (1) Social Contribution (社会貢献) ワタミ株式会社 (2) Human Resource Network (人材の発掘・活用) 株式会社パソナグループ (3) SI Travel Network (人的交流の促進) 日本航空 (工場) (4) Social Design / Community Development (生活・地域 デザイン) 本所都民防災教育センター 本所防災館、六本木ヒルズ (5) Culture (文化) 裏千家、江戸東京博物館、富士山 フェアウェルパーティー
4/28 (土)		参加者帰国 (成田／羽田空港)



日本青年国際交流機構(IYEO)大河原友子会長による歓迎レセプションあいさつ



歓迎レセプションにて、パネリストのMr. Hawazi Daipi (シンガポール、国会議員) (中央)と懇談される中川大臣(左)



歓迎レセプションにて、同期の既参加青年と旧交を温められる長浜博行内閣官房副長官(左から4人目)



総会に出席した各国事後活動組織代表者とパネリスト

■ SSEAYPインターナショナル設立25周年記念フォーラム

「東南アジア青年の船」の既参加青年で、政治、NGO、ビジネス、教育、国際機関などの分野で活躍するグローバル・リーダーをパネリストに迎え、「グローバル社会における人材育成の重要性」について話し合っていました。パネリストは、20代にそれぞれの国の代表青年として、日本政府（内閣府）主催の「東南アジア青年の船」事業に参加し、船で日本とASEAN各国を訪問、ホームステイを含めた国際交流プログラムを体験しました。青年期の大きな舞台での国際的体験が、その後の人生や考え方にどのような影響を与えてきたか、現在の活動を紹介しながら、グローバル人材の育成に必要な要素について考察しました。



パネリスト

●Mr. Visit Dejkumtorn (タイ、1975年参加)

ASSEAY Thailand顧問、Fund For Friends会長、Friendship For Peace会長

1991年、社会的に恵まれない環境にあるタイの子供たちを対象にした青少年育成キャンプ「For Hopeful Children Project」をスタートさせ、今年3月には、22回目のキャンプを実施した。

●Mr. Hawazi Daipi (シンガポール、1980年参加)

教育相、労働省上級政務官

教師、新聞社記者、シンガポール全国労働組合会議国際部部長を経て、1996年に国会議員初当選。2001年、2006年、2011年でも再選を果たし、地域開発委員、青年スポーツ委員などを務める。

●Dr. Rino Wicaksono (インドネシア、1983年参加)

SIインドネシア会長、元インドネシア工科大学土木工学部長

25年にわたって、建築・都市工学分野で教鞭をとり、インドネシア国内外で数多くのプロジェクトを実施。日本とASEAN諸国に焦点をあてたJaSeAN MagazineのCEOのほか、西ジャワ地方の民主国民党(NasDem)の専門審議会の座長を務めるなど幅広く活動。

●Mr. Inthy Deuansavan (ラオス、1998年参加)

Green Discovery代表、Inthira Hotel & Restaurant Management Co. LTD, CEO

ラオスで最も成功した青年実業家の一人、エコツーリズムの第一人者と言われる。2000年、オーストラリア・ラオスの合同ベンチャーとしてアウトドア・アドベンチャーのGreen Discovery Laos社を起業。エコツーリズムを正しくラオスに広めていくことを信念とし、幅広くビジネスを展開。

●野副美緒氏 (日本、1999年参加)

国連世界食糧計画(WFP)ラオス事務所プログラムオフィサー

2003年、国連世界食糧計画(WFP)スリランカ事務所での給食事業を皮切りに、2004年の津波後の緊急支援に従事。その後、スーダン南部カボエタ事務所でプログラム責任者を務め、ソマリア・南西部地域事務所勤務を経て、2011年より現職。

●大河原友子氏 (コーディネーター) (日本、1987年参加)

日本青年国際交流機構(IYEO)会長

2008年よりボランティアでIYEO会長を務め、今年3期目を迎える。自身が主宰する英会話学校Brookland English Schoolでは「国際社会で羽ばたくためのコミュニケーション力」をモットーに、子供から大人まで幅広い層に実践的な英語を教えている。

パネルディスカッション

テーマ：グローバル社会における人材育成の重要性

Significance of the Human Development in the Global Society

■「東南アジア青年の船」事業(SSEAYP)が自分の人生及や社会に及ぼした影響

ラオスのInthy Deuansavan氏は、「2か月間を船で過ごして、200名を超す友だちができ、その中で、自分を周りに合わせていくことが大切だということを知りました。ちょうど、プログラムに参加する2か月前に自分のレストランを開業したばかりだったので、大勢の人々と仕事をして、よいチームワークを築くこと、チームの中では互いを理解することが重要だと認識しました」と語った。

タイのVisit Dejkumtorn氏も多くの友人ができたことに言及し、プログラムの運営を学べたことも大きかったと語った。また、「このプログラムに選ばれて参加したのだから、自分たちは恵まれた人間であり、恵まれない人たちのためにぜひプロジェクトを実施したいと考え、タイの孤児等、貧しい子供たちのために、22年前からHopeful Children Projectというキャンプを始めました。最初は220名だった参加者が現在では2000名以上になり、5か国からボランティアが来て手伝ってくれるようになっていきます」と感慨深げに語った。

野副氏は、「世界中に友人ができたことから、日本のことをよりよく理解できるようになりました。また、『日本人はどうしてそうなのか』など、今まで考えたこともなかったようなことを外国の友人から質問され、自分の目が開かれるきっかけになったと感じています」と語った。

参加当時、英語と地理の教師だったシンガポールのHawazi Daipi氏は、「当初、このプログラムから何を学べるのだろうかと思っていましたが、単に何かを学ぶだけではなく、自分のことを再発見する機会になりました」と

語り、「自分には何ができるのか、何を考えているのかを知りました。また、世界に広がる友人のネットワークを得たので、何か行動しようとした時に、誰に連絡をとればよいのかがすぐに分かるのはありがたいと感じています。このプログラムに参加するメリットは、自分の能力を伸ばし、会社勤めをした場合には、精鋭として活躍し、21世紀を生き抜く力がつくことです」と強調した。

この事業に参加する前から、自分の一生を教育に捧げようと決意していたインドネシアのRino Wicaksono氏は、「SSEAYPに参加して、人には違いがなく、みな同じだということが最大の学びでした」と述べるとともに、「自身が貧しい学生であったことから、このような国際交流によって、人生を良い方向へ大きく変えていくことができると確信するようになりました」と力強く語った。

■今後のグローバル社会に必要とされる人材、能力とは

野副氏は以下の三つの点を挙げた。「一つ目は知識。二つ目は情熱。三つ目はプレゼンテーションスキルです。一つ目の知識とは、ネット等から簡単に入手できるものではなく、体験を通じた知識のことです。実際の経験を通して学んだことは一生の知識となるからです。三つ目のプレゼンテーションは、アメリカやヨーロッパの人が得意な場合が多いのですが、日本を含めアジアの人は少々おとなしい傾向があります。アイディアはあるのですが、他の人に話の順番を譲ってしまって、発言の機会を逃してしまいます。でも、黙っていると評価されないで、プレゼンテーションスキルは重要です」

タイのVisit Dejkumtorn氏は、時間を挙げた。「現在の社会では、時間が十分にある人は少ないですが、どれほどお金があっても、賢くても、時間がなければ、他の人のために善行を積むことはできません。しかし、最近では、この時間を使って貢献している人々が増えていて、大変素晴らしいことだと考えています。タイ語には『チットアサー』という公共心、ボランティアの心を表す単語があります。他の人のためにするという意味で、こうした精神が世界をより良い場所にすると考えます」

インドネシアのRino Wicaksono氏は、野副氏の挙げた「知識」に加え、「気づき」について言及しました。「何かに気づいていること、間違いに気づいて直そうとする意識は重要です」さらに、Visit氏の述べた奉仕の精神を挙げ、無報酬でプロの仕事をするボランティアに言及し、「他人に多くを与えれば、もっと多くが自分に与えられるという教えがあります」と語った。

ラオスのInthy Deuansavan氏は、大河原コーディネーターがラオスに行った時のエピソードを紹介しながら、人としての大切な精神を語った。「充電中の携帯電話をホテルに忘れてきたことを聞かされ、ホテルに電話したところ、そのままの状態置いてありました。このような正直さ、誠実さといった人としての徳は非常に重要な要素です。また、私が取り組んでいるエコツーリズムでは、責任感が大切だとされています。ラオスの美しい

森林は、現在どんどん切り倒されていますが、こうした資源を将来の世代に残していくという責任感も必要不可欠です」

他のパネリストの意見に加え、シンガポールのMr. Hawazi Daipi氏はスキルを挙げました。「今後、競争の激しい時代になるので、能力がなければ生き残ることができません。そのため、何を選んで自分の能力としていくのかが、非常に重要になります」

今回のパネルディスカッションでは、話の随所で、パネリストの現在までのキャリアは、SSEAYPの経験に根ざしていることが繰り返し語られ、言葉を変えながらも皆さんが共通して次のことを強調していた。

「接する相手が知らない人であっても、この人はこういう人だと勝手に決め付けてしまわないことは、SSEAYPの経験から学んだことです。第1回SSEAYPから38年たった現在でも、このプログラムによって、多くの人の人生が大きく変化しているのです。素晴らしい体験をさせていただいたので、今度は、他の人々の人生を良い方向に変えるお手伝いをしたいと思っています。そのためには、SSEAYPが継続して実施されることを願っています。そうすれば、日本及びASEAN各国の友情につながり、社会への貢献や世界の平和が促進されることになるでしょう」

課題別視察

4月27日、SIGA参加者は、それぞれの興味関心に合わせて、5つのテーマの8コースに分かれ、課題別視察に参加しました。視察、質疑応答、体験などを通じて、日本の文化、産業、経済、環境等の現状に対する理解を深める機会となりました。



裏千家を訪れ、茶道体験を通じて日本の伝統文化を学ぶ



富士山五合目を訪れ、日本の自然と文化を体験



ワタミ株式会社を訪れ、食品サービス業以外にも農業、教育、介護等様々な分野で展開されている事業について学ぶ



株式会社パソナグループを訪れ、国際的な人材ビジネスの展開について学ぶ



日本航空の機体整備工場を訪れる



SIGA開催中に使用されたロゴマーク入りのオリジナルグッズ

SIGA JAPAN 2012 社会貢献活動 (SCA) プログラム

SIGA Japan 2012の開催に伴い、東南アジア諸国と日本からの参加者40名が、岩手県陸前高田市において2日間にわたり復興支援活動に取り組みました。SCAのプログラムは、日本に集まった参加者たちが、支援活動に加えて、被災地の当時の被害状況、これまでの復興の経緯、さらには今後の取組などを理解し、参加者が自国において被災地の現状について発信することをねらいと定め、また、より一層の絆が深まることを期待して実施しました。

「東南アジア青年の船」事業(SSEAYP)既参加者が事業を通して得た「社会に貢献する精神」と、陸前高田市久保田崇副市長、及び岩手県青年国際交流機構、関係各位の協力の下、表敬訪問や小学校訪問、ボランティア活動など現地により根ざした社会貢献活動を実現することができ、事業で得たネットワークをいかした活動となりました。

【日 程】2012年4月22日(日)～25日(水)

【参加者】ブルネイ(1名)、マレーシア(6名)、フィリピン(1名)、シンガポール(4名)、

タイ(10名)、日本(18名) 計 40名



陸前高田市戸羽太市長(2列目右から7人目)及び久保田崇副市長(2列目右から6人目)を表敬訪問



岩手県IYEOと協働で行った「縁側カフェ」で談笑する地元の方とSCA参加者。縁側カフェは、被災者やボランティアにお茶を提供しながら、くつろぎの時間と空間を提供して、ストレス軽減につなげることをめざす



広田湾のホタテ貝養殖のための種袋作りを手伝う参加者

スケジュール

月日	時間	内 容	場 所
4月22日 (日)	21:00~22:30 23:00	オリエンテーション(日程説明等) 夜行バスにて東京より陸前高田市へ出発	都内
4月23日 (月)	7:00 10:00~11:00 11:00~13:00 13:00~ 16:00~18:00	陸前高田市着 陸前高田市 戸羽太 市長表敬訪問 陸前高田市 久保田崇 副市長による復興への取組についての概要説明 陸前高田市観光物産協会の案内による被災市内視察(バス) ボランティア活動: 広田湾のホタテ貝をみんなで有名にするお手伝い(種袋作り) 縁側カフェ(仮設住宅での交流カフェ)	鈴木旅館 陸前高田市市役所 広田湾 仮設住宅 鈴木旅館
4月24日 (火)	10:00~10:30 10:40~ 11:30~ 14:00 16:00~17:00 19:00 19:30~	【竹駒グループ】竹駒小学校訪問 伊藤学校長より学校概要説明 全校児童との交流活動 ①児童代表による歓迎のあいさつ ②校歌・合唱(全学年) ③アセアンの各国紹介・自己紹介 ④各教室に分かれて交流 給食・昼休み・清掃(児童と交流) 【米崎グループ】米崎小学校訪問 交流活動(新5年生) ①児童からの歓迎のあいさつ ②校歌・合唱 ③重倉太鼓 ④アセアンの学校や文化の違いなどの紹介 給食・昼休み(児童と交流) 両グループ、竹駒小学校で合流し、移動 世界遺産 中尊寺金色堂視察 旅館着後、自炊 夕食、SIGA総会での報告発表資料づくり	竹駒小学校 米崎小学校 平泉 鈴木旅館
4月25日 (水)	8:00 10:48 13:24/14:30	出発 一ノ関(やまびこ52号) 東京駅着後、バスでSIGA会場到着	鈴木旅館 昼食



米崎小学校にてインドネシア・アチェからのメッセージを伝える参加者



竹駒小学校を訪問されたシンガポール共和国特命全権大使チン・シアットユン閣下(後列左から6人目)と共に記念撮影

参加者の感想

- ・ ここに来る前は、私などが被災地を訪れていいのだろうかという迷いがあった。しかし、実際に訪問して、多くの方に歓迎され、自分が何かできればと思っていたが、逆に、多くの大切なものを被災地の方からいただいた。もっと多くの人が訪問して、現状を見てほしい。(マレーシア)
- ・ 訪問した小学校では、校庭に仮設住宅が建っているため、子供たちが遊ぶ場所が狭くなったとのことだった。それでも子供たちは工夫してお互いに助け合って生きている。子供たちの強さを感じ、このような子供たちがいる限り、日本は更なる復興へ向けて着実に進んでいくのだろうと思った。(タイ)
- ・ 現在、シンガポールにある日系百貨店で勤務している。同僚の日

- 本人に今回の社会貢献活動で陸前高田市を訪れることを話すと、ぜひ、現地の状況をよく観察して、現状を教えてほしいと言われて来た。今回見たこと、聞いたことを、ぜひシンガポールの人たちに広めたい。(シンガポール)
- ・ 37年前に「東南アジア青年の船」事業に参加した。被災して、事業中の大切な写真は1枚を残して全て失ったが、今日、同じ事業のタイの参加者とこの地で37年ぶりに再会できた。津波で写真は流されてしまったが、思い出や仲間と築いた深い絆まで流し去ることはできないことを痛感した。またの再開を希望にがんばっていききたい。(岩手県、第2回SSEAYP日本参加者)

タイ王国・スタディツアー2012

(財)青少年国際交流推進センターでは、平成24年3月19日～27日、自主事業として「タイ王国・スタディツアー2012」を実施しました。

大学生を中心とした9名の青少年と2名の同行職員の合計11名は、青少年健全育成プロジェクト「For Hopeful Children Project (FHCP)2012」にボランティアスタッフとして参加しました。これは、孤児であったり、障がいを持っていたり等の理由で社会的に恵まれない状況にあるタイの子供を「希望あふれる子供たち (Hopeful Children)」と呼び、彼らのために行われているプロジェクトです。

FHCP2012に先立ち、タイの「希望あふれる子供たち」の生活する児童養護施設を訪問し、それぞれの施設で子供たちと共に生活・活動することを通じて、子供たちとのコミュニケーションを深めました。活動を通じ、国際協力活動を実践するとともに、国際協調の精神を養いました。

月日	活動内容
3月19日(月)	バンコク集合
3月20日(火)	カーンチャナブリー県へ移動 子どもの村学園ムーバーンデックでの活動 子どもの村学園ムーバーンデックにて、子供たちと交流 子どもの村学園ムーバーンデック滞在(2泊)
3月21日(水)	タンマヌラック・子どもの村学園ムーバーンデックでの活動 タンマヌラックにて、子供たちと交流・施設見学 子どもの村学園ムーバーンデックにて、職業訓練ワークショップ参加、 子供たちとの交流会・文化紹介
3月22日(木)	サムットプラカーン県(バンコク郊外)へ移動 FORDECでの活動 FORDECデイケアセンターにて子供たちと交流、子供たちの自宅(低所得層家庭)訪問
3月23日(金)	チョンブリー県へ移動 FHCP2012タイボランティアスタッフと顔合わせ、事前ミーティング、 FHCP2012事前準備
3月24日(土)	FHCP2012 開会式、海水浴、参加各団体のパフォーマンス披露
3月25日(日)	FHCP2012 軍用船でタイ湾周遊、アスレチック体験、海岸清掃活動、 ブース別ワークショップ活動(日本文化紹介)、海水浴、参加各団体の パフォーマンス披露
3月26日(月)	FHCP2012 閉会式 子供たちとノンムッチ熱帯植物園見学 バンコクへ移動 FHCPタイボランティアスタッフとの夕食会
3月27日(火)	バンコクにて解散



子どもの村学園ムーバーンデックに2泊し、子供たちと交流する



タンマヌラックにて、子供たちに折り紙の折り方を教える



児童デイケアサービスセンターのFORDECで、子供たちが披露してくれたダンスに加わる



FORDECで塗り絵を通じて子供たちと交流する

■ For Hopeful Children Project (FHCP)2012

テーマ:「笑笑(イムイム)グローバル・スマイリング」

1991年に始まったFHCPは、今年で22年目を迎えました。本年の会場となったマハスラシンハナー海軍基地は収容人数が多く、昨年の倍以上の1,200名の子供たちが、タイ全国の20施設から参加しました。本年のテーマは「笑笑(イムイム)グローバル・スマイリング」です。これには、「自分が目の前の相手のことを想って笑顔になれば、相手も笑顔になり、それを見た周りも笑顔になる。笑顔の輪を広げていこう」という思いが込められています。目の前にあるゴミを拾って、「グローバル・スマイリング」を増やし、「グローバル・ウォーミング(地球温暖化)を軽減させよう」と願って、会場になった海岸でゴミ拾いも行いました。



For Hopeful Children Project (FHCP) 2012への参加を呼びかけるタイ語のポスター

■今回訪問した施設

1. 子どもの村学園ムーバーンデック

カーンチャナブリー県にある児童養護施設で、1979年に設立されたNPOです。両親のいない家庭又は、貧困・家庭崩壊などで育児のできない家庭出身の子供たちを預かっています。3歳以上の子供たちが、共同生活をしながら生きる術を学ぶ場であり、タイ教育省から認可を受けた学校でもあります。参加者は、川遊びや日本文化ワークショップでの交流、職業訓練ワークショップの見学等から、子供たちの暮らしについて学びました。

2. タンマヌラック

カーンチャナブリー県にある施設で、仏教の精神に基づき、尼僧により2000年に設立されました。両親のいない家庭や育児のできない家庭出身の子供たちを預かっています。タイ・ミャンマー国境地域で生まれた山岳少数民族(カレン族、モン族等)の子供たちが多くいます。今回は、半日の訪問で、子供たちとの交流及び施設見学を行いました。

3. FORDEC(フォルデック)

FORDECの創始者アムボン・ワッタナウォンは、孤児として、家もなく、食べるものも十分でない生活をしました。自分と同じ思いをさせたくないという一心で、困難を抱えた全ての人々に対する愛と心配りに自分自身の人生を捧げる決意をし、1998年にFORDECを設立しました。今回は、サムットプラカーン県にあるFORDECデイケアセンターを訪れ、センターに通う低所得者層家庭の子供たちと交流し、自宅を訪問しました。



FORDECで子供たちと記念品の交換をし、記念撮影をする



FHCP2012で日本人参加者と一緒に海で遊ぶ子供たち



日本人参加者が書く文字に興味深く見入る子供たち



「船と翼の会ふくしま」からの黄色い帽子をFHCPに寄贈する

子供たちの笑顔が教えてくれたこと(抜粋)

下川 美貴

子供と関わるボランティアを探していた時に見つけた「タイ王国・スタディーツアー 2012」の募集。「恵まれない子供たちとの交流」という内容に惹かれ、参加を決めた。タイへ向かう道中、「自分は『恵まれない子供たち』に何をしてあげられるのだろうか」と問い続けた。大学で国際政治学を学び、難民問題や子供の権利などに興味を持っていたが、実情を知る機会がなかった。数字や活字で表される飢餓や貧困といった問題を現地で子供たちと触れ合いながら、本質を見つめたいという思いでタイの地を踏んだ。

「子どもの村学園ムーバーンデック」では、初めは、タイ語が全く分からないため、子供たちとどのようにコミュニケーションをとればよいのか不安だったが、子供たちはとても人懐っこく、私の手を引っ張って「こっちであそぼ!」とニコリと笑いかけてくれた。子供たちは「野性児」という言葉がぴったりなくらい元気で、自由奔放な姿が眩しかった。しかし、彼らは貧困や虐待といった事情で、両親と離れて暮らしているという事実が脳裏をよぎった。私が簡単に触れてはいけない地雷を彼らは抱えているだろうと思うと、目の前の子供に対して臆病になってしまったが、彼らのそんなことを感じさせない笑顔に私もつられて笑みがこぼれた。

Beerという男の子は、両親を飲酒運転の事故で失くし、虐待を受けた傷跡が体に残っていた。自分の誕生日は「わからない」。年齢も「たぶん7歳くらい」。その割に体は異常に細く、体重も軽かった。初日にはちょっとしたことでパニックになり、泣き出すことがあったが、私たちに慣れて

くると、笑顔で走り回る年相応の元気な男の子であった。甘えん坊で私の膝から離れようとせず、私のカメラで自分の写真を撮る、なんて自己顕示欲の強い子なんだと思ったが、虐待経験のある子供は自己愛が強い傾向があるという心理学的な見解を知り、笑顔の裏に見え隠れする彼の過去を思うとやるせない気持ちになった。この施設での共同生活や職業訓練を通して、立派に育ってほしいと心から思った。(中略)

「自分は何をしてあげられるのだろうか」この問いはスタディーツアーでたくさんの子供たちと交流するうちになくなっていた。私は彼らの何かを大きく変えることはできないちっぽけな存在だけど、目の前にいる子供一人一人に全力で接することで、これから成長して無限の未来を持つ彼らの中で小さな記憶となり、軸となると考えるようになった。同時に「幸せ」について思いを馳せた。親と離れ離れでも、貧しくても、自分の暮らす環境の中で幸せを見つけながら必死に生きている。彼らの笑顔には人を幸せにする力がある。日本を含め世界中の子供が笑顔で生きられるために、自分ができることを模索しようと思う。



青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第28回全国大会 第19回青少年国際交流全国フォーラム 沖縄大会のお知らせ



日付：平成24年12月8日(土)～12月9日(日)
開催地：沖縄県糸満市サザンビーチホテル&リゾート
*詳細は追ってお知らせします。

第9回「日韓交流連絡会議」参加者募集

日付：平成24年8月17日(金)～19日(日)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
詳細は、追って、メーリングリスト及びホームページ等でお知らせします。
「日本・韓国青年親善交流」事業OB・OG以外の方も参加できます。



各テーマ別の意見交換
(共通ロゴマークグループ)



提案されたロゴマークを
ドミノで作るグループ



ディスカッションの成果発表

写真は全て第8回「日韓交流連絡会議」のものです。

「東南アジア青年の船」事業 既参加青年 田中治彦先生の新刊！

「若者の居場所と参加 ユースワークが築く新たな社会」

田中治彦・萩原建次郎 編著 東洋館出版社

「本書の…特徴は、『ユースワーク』による若者支援に焦点を当てたことである。従来、青少年健全育成活動、青少年団体、青少年センター、高校教育の課外活動などで行われてきた若者支援の活動を「ユースワーク」として分析し、今後への活動を明らかにする」

(「はじめに」より抜粋)



今月の表紙

SSEAYP Internationalアジア子どもの絵画展(1994年実施)

テーマ：「夢」と「家族」
タイトル：Dream
作者：Mukhom Sutharom
年齢：14歳
国名：タイ



編集後記

本号で取り上げたSSEAYPインターナショナル第24回総会(SIGA)の課題別視察に同行しました。富士山へ行きましたが、当日、東京はあいにくの大雨でした。富士山二合目あたりでは、濃霧が発生しており、これではせっかくの富士山見学も台無しだと思っていました。ところが、目的地である五合目に到着すると、なんと、晴天で、青い空を背景に雪をかぶった富士山の頂上がかっきり見えるのです。参加者は大喜びで、写真を撮ったり、雪で遊んだりしていました。朝早くから集合した参加者に喜んでもらえて、良い一日でした。(ふ)

MACROCOSM 5月号 vol.98

2012年5月31日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 (財) 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centrye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 本体191円

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



IYEO会員限定

海外のパッケージツアーが5%割引実施中

(一部2.5~4%割引のコースもあります)

JALパック:通常コース5%、JALパックスペシャルは4%割引、トップツアーCUTE:5%割引
 ◎その他、掲載外の海外パッケージでもお問い合わせください。
 (一部未取扱いのパッケージツアーもございます)

お問い合わせ・お申込みの際には、

▼パンフレット名 ▼商品名、コース名、コース番号 ▼出発日 ▼人数(大人・子供)
 ▼ご年齢 ▼部屋数 をお知らせ下さい。

期 間:6月~9月末ご出発まで

お申し込み先は・・・

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目5番25号 西新宿木村屋ビルディング16F

TEL:03-5348-3500 FAX:03-5348-3799

担当:米田 匡・鈴木 真実

E-mail:tadashi_yoneda@toptour.co.jp

営業時間:月~金 09:30~18:30 休業日:土・日・祝日



TOPTOUR

55年の実績と豊富な情報力で旅をクリエイトする

トップツアー株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 JATA正会員・ボンド保証会員



スモール・イズ・ビューティフルは、 本当です。

NIPPON MARU



クルーズの楽しさをご紹介する
「クルーズプレス」を無料購読してみませんか？
お問い合わせは下記・商船三井客船クルーズデスクまで

4~8日間 にっぽんの楽園クルーズ2012 ~屋久島・徳之島・沖永良部島・那覇~

Aコース	2012年 7月6日(金) ~ 7月13日(金)	横浜発~神戸着	8日間
Bコース	2012年 7月6日(金) ~ 7月10日(火)	横浜発~那覇着	5日間
Cコース	2012年 7月7日(土) ~ 7月13日(金)	神戸発~神戸着	7日間
Dコース	2012年 7月7日(土) ~ 7月10日(火)	神戸発~那覇着	4日間
Eコース	2012年 7月10日(火) ~ 7月13日(金)	那覇発~神戸着	4日間
旅行代金 (大人お一人様・消費税込み)	113,000円 ~ 1,400,000円		
	(Eコーススタンダードシート) (Aコースグランドシート)		



横浜~屋久島
NORA
(ヴォーカリスト)

梅雨明け間もないにっぽんの美しい南の島々をめぐる。普段はなかなか行けない徳之島と沖永良部島は、にっぽん丸も初寄港です。にっぽん丸オープンカレッジで島々の食や文化を学ぶのも楽しみ。また、世界的なサルサバンド、「オルケスタ・デ・ラ・ルス」のヴォーカリスト NORA の迫力のステージは必見です。

グループ旅行に
おすすめです! トリプルキャンペーン実施中
コンフォートステート1室3名利用の場合の
3人目の旅行代金が1泊あたり1万円に!

夏休み 東京アイランドクルーズ ~神津島~

3日間



早見優
(歌手)



タイムファイブ
(コーラスグループ)

2012年 8月20日(月) ~ 8月22日(水) 横浜発~横浜着
旅行代金
(大人お一人様・消費税込み) 85,000円 ~ 400,000円
(グループ3) (グランドシート)

海の上の東京・神津島を目指すクルーズ。2泊3日のコンパクトな日程で、夏休みの家族旅行にも最適です。オプションツアーではスイカ割りやサイクリング、釣りなどのにっぽん丸アドベンチャープログラムをご用意。お子様も一緒にお楽しみいただけます。また、ゲストにはにっぽん丸初登場の早見優を迎えます。コーラスグループ・タイムファイブとのコラボレーションは必見です。

4~5日間 飛んでクルーズ北海道

A・Bコース 小樽発~小樽着 4日間 小樽・利尻島・知布泊・小樽	C・Dコース 小樽発~小樽着 5日間 小樽・利尻島・網走・礼文島・小樽
Aコース 2012年 8月25日(土) ~ 8月28日(火)	Cコース 2012年 9月3日(月) ~ 9月7日(金)
Bコース 2012年 8月28日(火) ~ 8月31日(金)	Dコース 2012年 9月7日(金) ~ 9月11日(火)
旅行代金 (大人お一人様・消費税込み) 98,000円 ~ 572,000円	129,000円 ~ 762,000円
(グループ3) (グランドシート)	(グループ3) (グランドシート)

北海道のハイライトを短期間で楽しむフライ&クルーズ。航空機と組み合わせることで、全国各地からご参加いただけます。ドレスコードは全日カジュアル。北海道のベストシーズンを身軽に満喫いただけます。また、いずれのコースも早朝に世界自然遺産・知床半島に接航します。海から眺める知床の雄大さは格別です。船内での北海道の幸ディナーもお楽しみください。



掲載のツアーは、この広告でのお申し込みを受け付けておりません。お問い合わせ・資料(パンフレット)のご請求は下記にて承ります。 ※このほかにも各種クルーズがございます。 ※掲載の写真はイメージです。

商船三井客船

〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三井ビル5F

商船三井客船クルーズデスク



0120-791-211

<http://www.nipponmaru.jp>



ボンド保証会員